



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

会費

個人 3,000円以上
法人 10,000円以上

公益財団法人

友愛 始動

友愛理念を世界に発信する 理事長 鳩山由紀夫

元号が令和と改まるのに合わせるように、一般財団法人友愛は公益財団法人友愛と衣替えすることになった。公益法人化に当たり、人知れぬ苦勞と並々ならぬ執念を燃やした事務局長始め、ご指導ご協力くださった多くの方々に感謝を申し上げます。

元々「友愛の理念」を国内外に広めて行くこと自体、公益性のある事業と理解していたが、内閣府公益認定等委員会では、今までみなさまに最も親しみをもってお使いいただいていた軽井沢友愛山荘事業は公益事業と見なされず、やむなく事業継続を断念せざるを得なくなったのは、実に残念ではある。

しかしながら、軽井沢友愛山荘は、かつて鳩山一郎が青年たちへの友愛理念の啓発のために、裏磐梯、尾道、朝里川温泉などとともに建てたユースホステルを時代に合わせて改築したものであり、軽井沢は友愛理念の源流としてもまさに「友愛」ゆかりの地であるだけに、簡単に事業を終わらせる訳にはいかなかった。そこで、苦肉の策として、新会社「友愛山荘株」を設立し、友愛山荘の運営が継続できるよう手筈を整えた。公益財団法人友愛の事業からは切り離されても、山荘運営は継続させていくことが可能になった。したがって、今後も今まで同様、一般の方々に広く宿泊していただくことができる。宿泊の目的も自由になるので、研修に最良の「友愛ホール」を活用して、多くの方にご利用いただきたいと考えている。

このような犠牲を払ってまでも「友愛」を公益法人化したのは、ひとえに友愛活動を広め、「友愛」を末永く続けていきたいが故である。

友愛の理念を世界に広め、永続させていくためには、やはり資金が必要で、現在のようにごく少人数の寄付に依存しているのでは心許ない。ところが公益財団法人になると、私の政権時代にNPO法人や公益法人などを支援するために導入した税額控除という寄付の優遇税制を活用できることになる。大まかに言うと、寄付をした分、所得控除が受けられ納める税金が減るというシステムである。更に友愛が多くの方に支援されれば、寄付金額減税の処遇も受けることができる。国や自治体に納める税金は、自分の思う通りの使い道を決めることはできない。そこで納めるべき税金の一部を世界平和目的に活動する「友愛」に寄付し、自分も世界平和実現に貢献したと多くの方々に感じていただきたいのである。否、そのように皆様に思っていただけではないのである。

さてその世界平和であるが、友愛とは程遠く、世界で争いが絶えることが無い。この度はスリランカでテロが起き、多くの

命が奪われるという悲惨な事件が起きた。昨年私がスリランカを訪問した際に宿泊したホテルでも、日本人女性が行方不明になっている。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りする次第だ。

かつて、やんごとなき方から、自爆テロが横行しているが、死んで天国に行かれると信じている人に、どうしたら行方を思いとどまらせることができるかとご下問されたことがあったことを思い出した。そのとき私は返答に窮して、貧困などの紛争の原因を取り除くことが大事なのではないでしょうかと答えたように記憶している。確かに紛争の原因を取り除くことができれば、戦争は減るには違いない。

ガルトウング博士は積極的平和主義を唱えておられるが、その意味するところは、ただ戦争がない状態が平和なのではなく、貧困、差別、虐待などの紛争の原因を取り除くことの必要性を述べている。ある国の指導者は、平和を創り出すために武力の行使をすることが積極的平和主義と述べているが、全く筋違いである。ただ、イスラム過激派は必ずしも貧しい家庭とは限らず、裕福な家庭からも多いと聞いている。とすれば、彼らの心の中の意識を変えるしかない。いかにしてという問題は残るが、世界に友愛思想を広めて行くことが急務と感じている。

四月下旬の四日間、北京で一路フォーラムが開催され、一路一路の研究ネットを作る目的の会議に出席してきたが、スリランカの事件直後のこともあり、極めて厳しいチェック態勢であった。その開会式で私は、一路一路構想を友愛の心で推進してほしいことを主張した。

昨年の十二月に習近平主席に対して五分間スピーチをする機会を与えられた。そこで私は論語にある「仁」と「恕」の理念が友愛の理念に近いと申し上げ、友愛の精神で一路一路構想を推進して行つてほしいと述べた。習主席は応えて、論語を引用して「恕」とは「己の欲せざるところ、人に施すなかれ」だ、その精神で一路一路構想を推進すると述べられた。

私はこのエピソードを開会式で披露したのである。一路一路の議論となると、途上国のインフラを整備して繁栄をもたらすことに終始しがちであるが、私はその先に友愛の理念に基づく連結性と包摂性によって、地域の平和を導くことが一路一路構想の目的でなければならないことを強調させていただいたのである。

その夜、習近平主席ご夫妻が主催される一路一路フォーラムの夕食懇親会が開催された。八〇〇名を超すと思われるごった返しの会場に入つてこられた習主席が、私を見つけて歩み寄つてこられて最初に握手をしてくださったとき、一路一路構想が友愛の理念で進められていくことを確信した。

新しい「友愛」によせて

歴史と未来・五名の理事が寄稿

すべては時代とともに変化する

～友愛の新たなスタートを祝す～

常務理事 川手正一郎

人生とは何か。時々考える。運命とは誰に出会うかによって決まる。『その時の出会いが人生を根底から変えることがある。相田みつを』人は出会いにより己を知り、己を磨く。そして人は出会いで変化する。その変化がそれからの人生の節目となる事もある。但し変化か節目かの判断はその人次第。

私の節目は、旧制中学に入学したこと、二、東京へ出てきたこと、三、友愛の代表として二七歳の時アメリカへ行ったこと。

この三点が私の人生を根底から変えた。思考が言葉となり、言葉が行動となり、行動が習慣となり、習慣が人格となり、人格が運命となる。マーガレット・サッチャーやマザーテレサの有名な言葉だが、思考の対象は人間ばかりでなく坐迎師友である。

そんな視点から今日までの友愛の歩みを、公益財団法人認可を機に振り返ってみたい。

創立当初（一九五三年）の称号は友愛青年同志会。今考えますとずいぶん厳め

から次へと思い出され、当時の仲間の姿が思い浮かびます。でもその時は変化や節目に気付かず、塞翁が馬ではありませんが、山あり谷ありでした。とくに六〇年代から平成初期の時代。資金が逼迫し、やむなく山荘敷地の一部を断腸の思いで売却しました。

友愛生誕から四月で満六六年、五度の変化と節目を克服し、今日に至りましたことを心から嬉しく思いますと同時にご同慶の至りに存じます。そして厳しい時代を支えて下さいました多くの方々、特に鳩山家に深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第です。

また、この度の公益法人認可は過去六六年の友愛の実績が国や社会に高く評価された証左であり、従来の感覚と全く異なる新生友愛の新たなスタートでもあります。

その後、時代は昭和から平成に移行し青年運動も変遷。友愛青年連盟を財団法人日本友愛青年協会に統合。以来会員の高齢化に伴い、財団法人日本友愛協会と改称。再三の体質強化と近代化をすすめ、一昨年公益法人申請に伴い一般財団法人友愛と五度目の称号変更を行いました。

一〇年ひと昔の言葉があります。友愛六六年の運動や事業を鑑みますとそれぞれの時代による活動が次

した。幸せでした。光栄でした。しかし、人間としての友愛の目標である「心の欲するところに従えども矩を踰えず」や「兼愛」の琴線には程遠く、「常に尚足らざるを憂う」の心境です。

向後も一瞬一生を旨に私自身友愛のベースを墨守し、残る人生を全うする所存です。

以上、公益法人友愛のスタートに当たり、お祝いの言葉といたします。

六十六年・隔世の感

理事 芳賀大輔

一年ぶりに国際会議出席のため、モスクワ市内のホテルにチェックイン。成田からモスクワ・シエレメチエボ空港まで約一〇時間、アエロフロート機内で、YOMAの華麗なるチェロ演奏を聴きながら、機内食を喰み、情眠を貪る、あつという間の旅である。

一九五六年一〇月、友愛運動の祖である鳩山一郎元首相は、七十三歳、半身不随の身で、当時は羽田・モスクワ間の直行便はなく、フィリピン・タイ・パキスタン・ギリシャ・イタリア・スイスからスウェーデンを経由、今では想像すらできない航路で丸五日間かけ訪ソした。経由地で随員が降りても、迷惑をかけるからとエアコンが止まっている蒸風呂のような機内から降りず、会談相手のブルガーニン首相との想定問答を草稿されていたと伺う。そこまでの鳩山一郎首相の国を思う心、友愛とは何だったのだろうか。

新元号令和の発表と共に、友愛が公益財団として新たなスタートを切った。新生「友愛」はどこに向かうのだろうか。一九五三年、鳩山一郎元首相はクーデンホーフ・カレルギー伯の「自由と人生」に大いに触発され「友愛」が日本再興のテーゼであると友愛青年同志会運動を興した。

爾来六十六年経った今、世界はグローバル化、国・人種の交流が進み、また発展途上国の成長が著しい。比べて我が国は成長がほぼ止まり、少子高齢化が進み、もはや日本単体では何も出来ない。米国が助けてくれる訳でもない。見せかけだけではないその多様性を柔軟にするしか打つ術はない。アイヌ民族の先住民族認定など、余りに当たり前過ぎる話である。このグローバル化のキーワードこそが「相互理解・相互尊重・相互扶助」の友愛理念である。まさに21世紀以降の日本再興のテーゼと言っても良い。

ロシアはソ連崩壊後の今も八十八ヶ国、二〇〇以上の民族による多民族連邦国家だと言う。そこまではない得ないが、多様性に富んだ日本に再構築するしか我が国に未来はない。その意味で友愛の役割は遥かに大きい。令和を皮肉る訳ではないが「論語」の「学而篇」に「巧言令色鮮し仁」ばかりに調子が良くて顔つきを和らげている手合には、徳が無く、真情のある人間は少ないようである。」がある。孔子はうわべだけで実のな

い人間を嫌った。二千五百年前に孔子が見抜いたことは、そのまま今日でも真理として通用する。世界中のリーダーには傾聴してもらいたいものである。

これからの友愛

理事 井田安信

「平成」の時代が終わり、私たちは新しい「令和」の時を迎えることが出来ました。私は昭和三四年に生まれましたので、戦争が終わりから生まれ、戦争を知らずに育ちました。そして平成の時代に戦争がなかったことに感謝し、日本に生まれたことに感謝しています。

昭和に生まれた私たちは、科学や経済の発達に伴って生活がどんどん便利になったこと、情報網が発達し世界の出来事が瞬時にわかるようになったことを知っています。平成の時代だけでも信じられないような出来事がたくさんありました。天安門事件、ベルリンの壁崩壊、湾岸戦争、ソ連崩壊、香港返還、アメリカ同時多発テロ事件、イラク戦争など、映像でリアルタイムにその場面を見ることができ、世界に様々な考え方や文化・歴史があることを否応なく知ることになりました。

日本においても、阪神・淡路大震災、東日本大震災など大きな自然災害があり、特に温暖化による異常気象や東日本大震災の原発事故を考えると、あたかも生きている地球が私たちに自然破壊や生態系破壊につ

いての警鐘を鳴らしている気がします。

地球人のだれもが世界平和を望んでいます。原子爆弾の被爆国である私たちは、相互尊重・相互理解・相互扶助の友愛三原則を世界に広め、軍拡の愚を宣伝し、自然とともに生きる大切さを強調し、格差や差別を是正して新しい価値観を創造することができる民族であると思います。

昨年、ミャンマー農業研修生とともに広島平和記念資料館に訪問し、資料館の見学、献花と原爆体験者の貴重な体験談を聞く機会をいただきました。平和記念資料館には年間約百七〇万人の方が訪れ、そのうち約四〇万人が外国人だそうです。二〇一六年にオバマ大統領が訪問されてから一段と入場者数が増えたそうですが、私たちも世界の人々に戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴えていくべきだと思います。私たちは、友愛の理想や思想が現実のものとなるように、一人でも多くの仲間を増やし、多くの方に友愛を理解・協力し、信じていただける活動をしていきたいと思っています。

「友愛」思想の普及、発展のために

理事 攬上哲夫

一般財団法人「友愛」が、本年四月より公益財団法人に認定されました。

「公益財団法人の認定等に関する法律」の第一条（目的）には、「この法律は、内外の社会経済情勢の変化に伴い、民間の団体が自発的

に行う公益を目的とする事業の実施が公益の増進のために重要となつてゐることにかんがみ、当該事業を適正に実施し得る公益法人を認定する制度を設けるとともに、公益法人による当該事業の適正な実施を確保するための措置等を定め、もつて公益の増進及び活力ある社会の実現に資することを目的とする。」とあります。同法第4条に「公益目的の事業を行う一般社団法人又は一般財団法人は、行政庁の認定を受けることができる。」とあり、公益認定の基準として、第5条で十八の項目を挙げています。例えば、第一項で「公益目的の事業を行うことを主たる目的とするものであること。」、第二項で「公益目的の事業を行うのに必要な経理的基礎及び技術的能力を有する者であること。」、第三項で「その事業を行うに当たり、社員、評議員、理事、監事、使用人その他の政令で定める当該法人の関係者に対し特別の利益を与えないものであること。」とあります。

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

公益とは、「広く益すること。社会一般に利益を与えること」（広辞苑）と定義されています。今後、公益財団法人「友愛」は、社会に有益である活動を常に意識しながら活動していくことが求められます。また、その運営を担う、理事、監事、事務局の者は、活動を支える専門性を必要とされ、特に経理の基礎を踏まえて活動をする、活動をするにあたる関係諸機関との連絡、調整の技術的な能力が

必要とされること、事業そのものを「私」しないことなど、関係法規との整合性を研究しながら活動をしていかなければならないと思います。

かわるもの

理事 西川伸起

昭和二八年に設立された「友愛」の前身である友愛青年同志会から六六年目に当たる本年、「友愛」は新たな時代とともに変革をしていきます。理事の一人として、その責任の重さを認識しながら、公益を踏まえた活動に務めてまいります。

公益財団法人として認可を受け、友愛の歴史がまた新たな一ページを刻むこととなった。

国として活動の公益性を認め、財団自体の税優遇のみならず、財団に寄付を行う個人にも税金の優遇措置があり、寄付が従来にもましてやり易くなるという。

今後の友愛活動を持続可能なものにしていくにも、あまたの公益財団法人の中から、寄付先として友愛を選んでいただく事が重要となる。そうなると、ついついマーケティング的に他の公益財団との差別化、比較優位な観点を探してしまうのは、ビジネスマンの一つの職業病である。

もちろん「友愛」の「理念」や「目的」はわかる人には十二分すぎるほどに差別化されており、理念共感型の寄付は基本中の基本となるのであるが、残念ながら必要条件ではあっても、

十分条件にはなっていない。公益財団法人友愛が、世間一般の方に知名度を持つて認知され、かつ、分かり易い差異要因としては、「歴史」と「伝統」があるのではないか。

設立以来の脈々たる友愛の活動そのものが、大きな財産であり、そこから生まれ現在も続くオーストリアのエヤップや中国の国際交流中心との関係などはその顕著な例である。これら「歴史」と「伝統」の果实を守り育て生かしながら、活動を継続・発展させていくことは当然のことである。「相互尊重、相互理解、相互扶助」の友愛理念、自由と平等の対立をアウフヘーベンする友愛思想の本質は変わらないのだから。

そうは言っても、これでは予定調和に過ぎ、新しい一ページとしては面白味に欠ける。元号も変わる中で、新時代としてのわくわく感はやはり必要であろう。変わり続けるものが強いものであり、また変化し続けるものだけが存続し続けられるというのは、自然界の掟でもあり、人間社会の歴史が教えるところでもある。その観点から、アマノジャクの私としては、あえて変わるものを挙げてこの駄文を終わらせることにしたい。

変わるもの、変えるものが見えてくることによって逆説的に変わらな本質が、守るべきものが浮かび上がるのではないか。

変わるもの…名称、名前、呼び方…なんて…。

お後がよろしいようで。

第四期中青年陝西省麟游県生態緑化モデル林事業

第四期植林終了・緑の山を夢みて

鳩山理事長始め五名の第三〇次友愛訪中団が交流
昨年植林の木々は、順調に生育していた

三月十四日（木）から十八日（日）までの五日間、第三〇次友愛植林訪中団が中国陝西省麟游県を訪問。

地元ボランティア学生等一五〇名と一緒に、急勾配の斜面に植樹を実施した。第四期（最終期）となった今年も、初めて土が乾いていた。元々雨の少ない地域で、そのため緑も育たず植林地として選ばれた場所ではあるが、何故か過去三回は全て雨の中の植林となった。それも数週間、時には数ヶ月ぶりの雨が降ったとのことで、友愛訪中団は恵の雨を連れて来てくれると、地元の方々に喜ばれていたほどだ。ところが、細かい粒子の土は、雨が降るとひとたまりもなく、一歩歩く毎に泥が靴にこびりつく。どんどん泥がたまつてまるでポツクリの様な状態で山道を歩いたものだ。

しかし今年は土が乾いている。泥がからみつく道よりははるかに歩きやすいが、植えた木々の苗にとっては水が足りなくなるのではと、心配が先にくる。

昨年、一昨年も出発地点のステーションに使った場所から、急斜面の山の中腹を横切るように作られたにわか作りの道を進み、鍬とスコップを使って苗の根に見合う穴を掘り、一本一本丁寧に植えていく。根を縛って作られた球状の根は、直径三〇センチはある。穴も相当大きく且つ深く掘らなくてはならない。

乾いた土埃が立つ中を、更に掘り進めると、湿った黒い土が出てきた。これで安心して苗を植えられると、一同ほっとした。足場の悪い中、理事長ご夫妻も、夫唱婦随、息の合った協力で、いくつもいくつも穴を掘り、苗を植えた。ボランティアの学生達も歓声を上げながら、チームを作り、苗を運ぶ人、鍬を使うもの、水を運ぶ人とそれぞれが協力して次々に苗を植えていく。

準備した二〇〇本の苗を植え終え、全員で列を作つて山道を戻った。ここでも鳩山理事長は大人気。次から次へと学生たちが一緒に写真に収まりたいとスマーフォンを向ける。鳩山理事長は歩みを何度も止め、笑顔で学生達の思いに応えていた。

基地に戻ると毎年靴の泥を洗い流すのに使った小川があり、今年は要らないねと皆笑顔でお互いに顔を見合わせていた。

昨年までの植樹は、充分に根付いており、地元の方々の努力とご苦労が伺われた。陝西省麟游県の植林事業は今回で終了するが、数年後緑に覆われた山々に見訪れたと思った。

（羽中田記）

第三〇次植林訪中団参加者／鳩山由紀夫理事長／鳩山幸理理事長夫人／川手正一郎常務理事／川手祥右さん／高橋佳大さん／羽中田元美友愛事務局長

植林が終わって地元の方々、国際交流中心の王さんも一緒にみんな記念撮影



公益財団法人 友愛への会員登録をお願いします！

公益財団法人友愛の理念にご賛同ご協力くださる方を広く募っております。公益財団法人友愛の理念については、下記定款（抜粋）をご一読ください。（定款・会員規程とも全文はHPにてご覧いただけます）

公益財団法人としての出発にあたり、会員を新たに募ります。一般財団法人への会員登録をされていた方も、再登録をお願いします。納めて頂いた会費は、寄付として50%以上を公益活動に充てます。多くの方のご登録をお待ちしております。

会員に関する規程（一部）

（目的）

第1条 この規程は定款第3章第13条2項の規定に基づきこの法人（以下本財団という）の会員の入会及び退会並びに会費の納入に關し必要な事項を定めるものとする。

（会員）

第2条 本財団の目的、事業に賛同する個人、法人、団体は理事会の承認を得て会員となることができる。ただし2項に該当するものを除く。

2 反社会的勢力の一員またはこれに關係する者（入会手続き）

第3条 会員になろうとする者は所定の入会申込書を提出しなければならない。

（会費）

第4条 会員は会費を納入しなければならない。納入された会費は、本財団への寄付金として取り扱い、毎事業年度におけるその合計額の50%以上を当該事業年度の公益目的事業に使用する。

個人会員／三千元 以上

法人会員／一万円 以上

2 会費の会計年度は本財団の会計年度と同一とする（会員の特典）

第5条 会員は次の特典を享受することができる。

（1）本財団が発行する機関紙の配布を受けることができる。（2）本財団が主催、共催する研修会、セミナー等の案内を受け取ることができる。（3）本財団が主催、共催する研修会、セミナーの参加に対し、会員割引を受けることができる。

公益財団法人 友愛 定款（一部）

友愛の理念を盛り込んだ活動の礎

― 前文 ―

混沌とした世界の中で、心を置き去りにした市場原理主義や金融資本主義は、人々の間の格差を拡げ多くの貧困層を生んでいる。一方で、その反動としての国家主義（ナショナリズム）の台頭は周辺諸国との摩擦を激化させ、平和を脅かす状況をも生じている。

クーデンホフ・カレルギーは、自由も平等もそれが原理主義に陥るとき、結果として人間の尊厳を侵し、本来、自由や平等の目的であるはずの人間を手段と化してしまつと喝破した。そして、人間の尊厳を護るべく、自由と平等の均衡を図る理念を友愛に求めた。また、鳩山一郎はその友愛の理念を「相互尊重」、「相互理解」、「相互扶助」と説き、国民全体への普及に努めた。

この法人は、鳩山一郎の遺志を昇華発展させ、日本はもとより、世界、とくに中国や東アジアの国々の平和を希求する人々が、自立と共生の友愛の理念に基づく共同体を構想することの必要性を認識して、種々の国際交流事業を行い、国内外の青年や社会人との交流を深め、更には、友愛の理念を理解し、継承、発展させることができる人材の育成を図り、もって世界平和に資することを目的として創設するものである。

定 款

第1章 総 則

（名 称）

第1条 この法人は、公益財団法人友愛と称し、英文ではYUAI Foundationと表示する。

（目 的）

第3条 この法人は、前文の理念に基づき、自立と共生の友愛の理念のもとに、国内外の青年や社会人の交流を深め友愛の理念を次世代に継承、発展させる人材を育成し、国際相互理解を深めもって世界平和に資することを目的とする。

（事 業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（1）友愛理念の普及・啓発に寄与し、世界平和を目指す活動を実践できる人材を育成し、国際相互理解を深めるための国際交流事業

（2）友愛理念のもと、世界平和を目指す意識を啓発するための表彰事業

（3）その他、目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業について

は、日本国内及び海外において行うものとする。

……………

公益財団法人友愛定款・会員規程など全ての情報はホームページ上に公開されています。ご参照ください。
<http://yuai-love.com>

特別寄稿

研修生との思い出

中田 英志

平成三十年九月下旬に、ミャンマーから三名の研修生が来日しました。

平成二十九年にも来日したティンさんと今回初めて来たインザリさんとミンゾーさんは、サツマイモの収穫、保存、加工などを勉強しに来ました。研修がお休みの日には、色々な所を観光しました。

ミャンマー人であるばかりの父が、研修生の通訳や案内をしていたので、ぼくも学校が休みの日や学校が終わってから父と母も一緒に案内をしました。

研修生が鹿児島での研修を終えて、広島と京都へ訪れ、東京に戻ってきてからの十一月の日曜日、日比谷公園で行われたファーマーズフェスタに行きました。そこでは、野菜や果物の栽培方法やその加工品、唐箕（とうみ）という風の力で穀物をもみがらと玄米、ごみなどに分ける昔の農具などを見学しました。唐箕は学校の教科書で見て知っていたけれど、実物を初めて見たので見入っていたら、

お店しているおじさんに、唐箕と現在使われている機械の違いを教えてください。とても勉強になりました。飲食店もたくさんあり、いろいろな物を食べました。ティンさんは、母が買ってきたとりとネギのからあげを気に入り、自分でも買って食べていました。父とインザリさんは、天然のダ

シと化学調味料を使ったダシを飲み比べて違いを当てるという所で二人とも正解し、喜んでいました。

次の休日には、東京デイズニーシーへ行きました。みんなに東京で見た所、行きたい所聞くと、特になんと言っていたのですが、唯一行きたいと言っていたのがデイズニーシーでした。そこでは、いろいろなショーを見たり、たくさんのアトラクションに乗りま

した。中でも研修生のお気に入りだったアトラクション「トイストーリーマニア！」では、みんなで点数を競い合つてとても盛り上がり、みんなとの距離が縮まった気がしました。ミンゾーさんは、年は若いけど、結婚して子どもがいるからかいつも大人しくて静かな印象でしたが、この日ははくよりむしろはしゃぎ、よくしゃべっていて、一緒にいてとても楽しくなりました。

夜に行われた「ファンタズミック！」という水上ショーでは、いろんな演出にみんな感動していました。そのあとに行つた「ビッグ・バンド・ビード」というミュージカルショーでは、歌や音楽、ダンスなどにリズムをとったりして楽しみました。最後に見た花火にはみんな釘付けになり東京デイズニーシーを満喫した一日でした。

こうして毎日のように色んな所へ出かけ一緒に時間を過ごしたのでみんなが帰ってからは、とてもさみしかったです。今、みんなはミャンマーでどうしているのかなと時々考えたりします。研修で学んだことをどのように生かしているのかなと気になることもあります。今度はぼくがミャンマーに行つてみんながしていることを見に行つてみたいと思います。

研修生が日本で勉強し、楽しい時間を過ごしたと思いますが、ぼくもたくさん楽しかった思い出ができました。

研修生と記念撮影写真右からミヤットーさん（事業実施時の通訳等で協力いただいた）、筆者の中田英志さん（中学一年生）、ティンさん、インザリさん、ミンゾーさん



― お知らせ・お断り ―

五月号は、公益法人認可を記念して第558号・559号の合併号とさせていただきます。

「友愛時評」休載いたしました。

『友愛』バックナンバーは、ホームページでご覧いただけます。

人生とは「出会いと感謝」

人生とは「出会いと感謝」。人はつき合う人によって生かされている。運命とは誰に出会うかによって決まる。身近な人を大事にしよう。

出合いは一期一会の心と有難うという言葉で始まる。寿命は友人の数で決まり、幸せは有難うの数で決まる。

人生、何を知っているかではない。誰を知っているかだ。

笑顔は心を豊かにし、幸運を呼ぶ。出合いで人は変化し、感謝で人は成長する。人は年令に関係なくいつでも変わる。

出合いとは「我以外皆我師」吉川英治。

◆「感無量」という言葉があります。そうそう体験できる思いではありません。「友愛」の未来を模索して理事長はじめ理事の方々が何度も協議を重ね、公益財団認可申請の方向を打ち出しました。以来、初瀬先生、小林先生、星田先生に助けて頂きながら書類作り、資料作りに追われる日々でした。同時に事業実施も責務であり、歳を忘れた仕事三昧。充実の日々でした。ついに公益認可の知らせ！ 正に感無量。これで仕事も楽になると思ったのも束の間、公益財団法人としての基礎づくりに追われる日々が続いています。でも「感無量」も味わえたいし、元気で仕事ができることこそ、我が人生の幸せと思っています。感謝、感謝（も）